



うた ひつじの詩だより

2013 3 1
毎月発行 No.144
この更にはご注文の品と
いっしょにお届けします

ひつじのうたまつり 「ワールド人形と羊毛の手仕事展」
～ひつじ雲にのって～ 於：横浜赤レンガ倉庫

4月12日(金)、13日(土)、14日(日) 11:00～19:00 (最終日17:00まで)

「あなたへ」ばたぼん(ワールド人形の伝え手たち)をはじめ、スウェーデンひつじの詩舎の仲間たちが、心を込めた贈り物を用意して、みなさまのお越しをお待ちしています!

通信講座「ペレの学校」展、お人形と遊べるコーナー、人形作り方相談コーナーなどの楽しいスペースを設えました。また、手作りのお人形を始め、この日のために一つ一つ大切に作られたぬくもりのある作品を展示・販売いたします。(クレジットカードのお取扱いはできません。)

【会期中の催し物のご案内】

13日(土)

13:00～ 笛のコンサート 吉田のスナフキン・森の笛詩人 オマタタツロウさん

14:00～15:30 子どものためのワークショップ「虹色小枝」(参加費 300円・予約優先)
担当：ペレのこひつじ

14日(日)

11:00～12:30 子育て界のカリスマ 岩城敏之さんのお話

「笑って学ぶ子育てのコツ～みんなで育む未来～」

おもちゃ屋から見えること/絵本が育むこと/子育ては文化/

日本の伝承から学ぶ/世界の最先端から学ぶ/未来へつなぐ愛情の連鎖

13:30～ ワークショップ「おおきなフェルトボール」(参加費 1000円・予約優先)

担当：アトリエワークショップの会

14:30～ 笛のコンサート 吉田のスナフキン・森の笛詩人 オマタタツロウさん

期間中毎日

12:00～随時 ばたぼんによるワークショップ「パネルで織ろう」(参加費 1800円)

※他のイベントと重なる時間帯はお休みいたします。

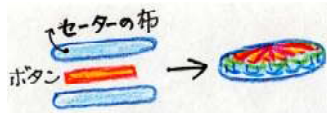
★ワークショップ「虹色小枝」と「おおきなフェルトボール」以外は事前のお申込みは不要です。
お問合せ・お申込み スウェーデンひつじの詩舎 045-881-6900

ばたぼんたちの アトリエから

手仕事の際 皆さんは指ぬきをを使いますか? 昨年の夏、韓国の方にワールド人形を伝えることになった時のことです。その方はとても器用に、人形の首回りを縫うときも人差し指の腹で大きな針を押し進めます。私は使うことなく飾ってあった韓国土産の指ぬきを差し出すと、彼女は美しく刺繍した指ぬきを人差し指にはめ、上手に使うのです。私は中指の第二関節あたりに皮の指ぬきをはめ針を押し進めます。お互い母の手仕事をそばに感じながら育ったのねと、微笑みあいながらの手仕事となりました。 小西貴子



着ていなかったゆったりセーターを洗濯機で洗いフェルト化後、リメイク! 残った所も使ってオリジナルボタンを作ってみました。平たいボタンをはさんで縫い閉じる。刺繍すると可愛いボタンに! 刺繍すると 館鼻靖美



3月のテーブル 「毛刈りの季節」

3月20日の春分の日、私達がオーナーになっているマンクスの毛刈りの日です。羊たちはまるはだかになってちょっと気の毒ですが、どのくらい羊毛がとれるか楽しみでもあります。実際はバリカンで刈りますが、はさみで刈っているところを、八王子の磯沼ファームで見たことがあって、そのイメージで作りました。2月、3月の服部牧場では生まれたばかりのこひつじも見られるので、おすすめです。 池上洋子



ばたぼん通信

「毎日ひと仕事」

縫い物でも刺繍でも編み物でも、毎日何か手仕事をしようと決めてから、今年で4年目。何気なくふっと思い立って決めたことなのですが、意外にこれが楽しく続けられています。正直を言えば針を持ってなかった日もありましたが、「今夜もひと針しなくちゃ」と落ち着いた時間を持つのは、なかなかよいものです。おかげで、やりかけの物が片付くのですが、あれもこれもと新しいものを始めたりするので、やはり常に何種類かのやりかけの物があります。台所の脇のコーナーにきれいな手提げ(もちろん手作り)に入れて並んでかけてあり「今日はこの袋～」という具合。楽しく続けるには、と、道具入れもあれやこれやと手作り。ハンドバックに入るように薄い缶で作った文庫本サイズのもの、チーズが入っていた丸い木箱のふたの裏に針刺しをつけたもの、小さな針山は、はさみにぶら下げるとなかなか便利。はさみもすぐに見つかるし、針も刺せるので、よい具合。

最近作ったものの中のお気に入り、『ぼんぼん鳥』を職場で子どもたちと作ったあと、色々な色のしかも短い毛糸が残ったので、それを細編みでつなげて編んだポット敷き。裏は着古したセーターをあて、なかなかよい感じに仕上がりました。この冬、活躍しています。さて、今夜は何しようかな。 内田直子(東京都中野区在住)

辰巳芳子さんの言葉に強く惹かれています。手元にある『手からこころへ』(辰巳芳子著/海竜社)。お料理の本としては私にはレベルが高すぎて「すみません! できていません!」と謝りたくなることばかりなのですが、歳時記として読むと簡潔な日本語が美しく、描かれる四季の風物の在りようにうっとりします。繰り返し読んで飽きることがありません。

そもそもこの本のタイトル『手からこころへ』は、スウェーデンひつじの詩舎の言葉そのものではありませんか!? 目次をめくると「暮らしのあたたか味・表現さまざま・自然を掌に・手ざわり・伝える喜び」。私たちのしていることも、“食”ほどの切実さはないとしても、“手仕事”一手の感触をつうじて、なにごとかを成す一 という一点において、根っここの部分では共通しているのだと思います。深く心に入ってくる言葉がページを繰るたびに見つかります。

“この頃、春といえ三月から五月までのつもりになりがちだが、旬の感覚では、立春から立夏までを春としてとらえぬと、日本の春にのりおくれる。なぜか段取り不足となり、春を深々と味わえぬ悔いがかならず残る。(中略) 初春、仲春、晩春、と三春には違いないが、このような大まかな分け方は、一日として過ごせない。旬は十日目十日目で数えるが、これでもまだ足りない。”

この春のスウェーデンひつじの詩舎はまつり色! この気分には、何をかいても乗り遅れないようにいたしましょう! 4月14日を過ぎた晩春、清明の頃には、みんな心地よい達成感に満たされていることでしょう。 佐藤治子

「スペース ペレのあたらしいふく」3月の開店日
1日(金)～15日(金)(日曜・祝日を除く)10:00～16:30

ホームページ <http://www.s-hitsuji.co.jp/>

編集担当: 佐藤治子

♥ スウェーデンひつじの詩舎 ♥

スペース ペレのあたらしいふく

〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2

TEL&FAX 045-881-6900,6665

佐々木のアトリエ TEL&FAX 045-811-6708

相談窓口(金) 寺田裕子 045-881-7035